

保健体育科 学習指導案

日 時 平成18年11月15日(水) 5校時
学 級 3年3, 4組女子(3組17名4組17名計 34名)
授業場所 体育館
授業者 後藤 律子

1 単元名 球技(バレーボール)

1 単元について

(1) 教材観

球技は、ボールなどを媒介として、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し得点を取り合って勝敗を競い合うことをねらいとし、チームの課題や自己の能力に適した課題の解決に取り組んだり、ゲームを楽しんだりする運動である。

その中でも、バレーボールはネット型ゲームで、相手にじゃまされることなく自己のプレーができるところが混戦型ゲームとの大きな違いである。そのため、身体接触が少なく安全性が高く、狭い場所でも多人数で楽しむことができる。、さらに、ボールを手で扱うことから、運動の苦手な生徒も比較的容易に取り組むことができるスポーツである。体力面では、バレーボールの練習を通して、ジャンプ力、敏捷性、調整力など中学生期のバランスのとれた体力を高めることができる。さらに、チームワークが重要視されるスポーツのため、自己の役割を自覚し責任を果たしたり、協調性を養うなど社会生活に必要な態度の育成をねらいとする。

(2) 生徒観

新体力テストの結果では、A判定の生徒が19%、B:38%、C:31%、D:6%、E:6%という結果であった。運動の好きな生徒が多く、明るく行動的で挑戦しようという気持ちを持っているが、反面、落ち着いてじっくり思考することが苦手な生徒のいるクラスと、目立たないがためにこつこつと頑張る思いやりのあるクラスと対照的なクラスである。

事前アンケートからみた実態としては、バレーボールが好きと答えた生徒は約7割で、嫌いは2割(とても嫌いは2人)であった。

好きな理由としては、「楽しい、ボールが当たるとうれしい、続くとおもしろい、ストレス発散になる、みんなで楽しめる」等で、バレーボールの特性を理解している生徒である。

一方、嫌いな理由としては、「痛い、長く続かない、うまくできない、へただから、チームに迷惑をかける、失敗したときの空気が嫌」等で、ほとんどが個人的技能の未熟な生徒である。

この実態から、技能の未熟な生徒でもバレーボールの楽しさを体感できるように、励ましやアドバイスなどを多くすることで班内の雰囲気をよくして、苦手意識を持っている生徒を巻き込んでいくようにさせたい。

(3) 指導観

技能面では、個人的技能を高めるためのドリルゲームを毎時間行い、記録を取ることでその伸びを実感させたい。また、集団的スキルを高めるためのタスクゲームを位置付けて、カバーの動きや三段攻撃へとつなげていきたい。

また、技能の未熟な生徒でも、バレーボールの楽しさを体感できるように、ルールや場を工夫して、自分の持っている力で練習やゲームができるようにさせたい。

生徒の中にはバレーボール部員が4名おり、また、バレーボールが得意な生徒もいるので、リーダーシップを生かして班の中心となり活動を進めていくように指導したい。特に、苦手意識の強い生徒を萎縮させないためにも、アドバイスや励まし、決まったときのハイタッチを薦め、明るい雰囲気に巻き込んでいくようにさせたい。

3 単元の指導目標及び評価計画

(1) 単元の指導目標

- ア、チームにおける自己の役割を自覚してすすんで取り組むとともに、健康・安全に留意しながら協力して練習やゲームができる。【関・意・態】
- イ、チームの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指して、ルールを工夫したり作戦を立てることができる。【思・判】
- ウ、個人的技能や集団的技能を身につけるとともに、作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。【技能】
- エ、バレーボールの特性を理解し、競技や審判の方法がわかる。【知・理】

(2) 指導計画と評価計画（本時 8/15 時間）

時	指 導 内 容		観 点 別 評 価 規 準			
			関	思	技	知
1	準	・オリエンテーション、チーム編制、試しのゲーム				
2		・パスの練習、連続パスゲーム				
3	備	・ "				
4		・スパイクの練習				
5	運	・3本で返す練習				
6		・3本で返す練習（3人全員がさわる）				
7	動	・レシーブ・トスの練習				
		・レシーブ・トス・パスの練習 【本時】				
9	補	・3段攻撃の練習				
10		・ "				
11	強	・チーム練習、ゲーム				
12		・ "				
13	運					
14		・リーグ戦				
15						

4 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・仲間と協力して学習に取り組み、練習やゲームを進んでしようとする。【関・意・態】
- ・レシーブ・トス・パスとつなぐことができる。【技能】

(2) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	具 体 の 評 価 規 準		努力を要する生徒への指導の手だて	評価場面（方法）
		A十分満足できる	B概ね満足できる		
関心・意欲 態度	すすんで行動し、声をかけ合いながら協力して練習しようとする。	仲間のがんばりや良さを認め、声をかけ合いながら意欲的に練習しようとしている。	仲間と協力して練習しようとしている。	ミスを怖がらずにどんどんさわるようにアドバイスをする。	チーム練習 ゲーム 自己評価
技能	パスの基礎技能を身につけ、レシーブ・トス・パスとつなぐことができる。	パスの基礎技能を身につけ、3段攻撃につなげようとしている。	レシーブ・トス・パスとつないで相手コートへ返球できる。	課題や改善点を明確にし、励ましたりアドバイスをする。	チーム練習 ゲーム 自己評価

(3) 研究内容との関わり

ア 本時の基礎・基本

声をかけ合いながら積極的に活動することができる。
レシーブをセッターに上げることができる。

イ 定着を図る指導の工夫

音読することで学習課題をしっかりと把握する。
グループ毎に反復練習を繰り返すことで、技能の定着を図る。
転写法でレシーブのポイントを確認する。

ウ 動機付けの工夫

師範により目指すものを明確にイメージさせる。
反復練習のなかで、賞賛やアドバイスをしてお互いに認め合う。(有能感)
タスクゲーム。(有用感)

(4) 展開

段階	学習内容・学習活動	指導及び支援の手だて 指導の留意点 支援	評価の視点 * 具体的評価規準	研究内容との 関わり
導入 15分	1. ランニング・準備体操・筋トレ 補強運動・連続パス	正しい運動を行うよう声がけする。 大きな声で元気良く行わせる声をかけ合い、カバーし合っ てパスをできるだけ続けるよ うにさせる。		ア
	2. 整列・挨拶			
	3. バレー部による 師範	バレー部に、レシーブ・トス ・パスと師範させ、その後、悪 い例として教師がやって見せ ることで、3本つなくため には、良いレシーブをセッター にあげることが大切だと言 うことを理解させる。		ウ
	4. 学習課題の提示	大きな声でゆっくり読ませる		イ
レシーブ・トス・パスとつないで OLバレーにさようなら				
展開	5. チーム毎の練習 ・1人は相手コートからサーブを投げ入 れる(3回で交代) ・他の3人はレシーブ・トス・パスで返す (セッターは固定) ・セッター以外の生徒が1人ずつ交代	セッターがトスを上げやすい レシーブをさせる。 方向がコントロールできない生徒 セッターを向いて自分の近くにボールを高く上げる ように指導 レシーブが低い生徒 セッターの近くに高く上げるように指導 レシーブがかえる生徒 パスを返す場所を工夫したり、強く打ってみよう師導	【関・意・態】 A仲間のがんばりや良さを認め 声を掛け合いながら意欲的に練 習しようとしている。 B仲間と協力して練習しようと している。 【技能】 Aパスの基礎技能を身につけ、 3段攻撃につなげようとして いる。	アイウ

<p>展 開 30分</p>	<p>7. タスクゲーム ・ 3対3 ・ レシーブ・トスで返したら1点 ・ レシーブ・トス・パスで返したら3点 ・ サーブは投げ入れかアンダーサーブ ・ 10点先取で勝ち</p>	<p>レシーブ・トス・パスで返したときや、ナイスカバー、ナイスプレーのときは誉める。 特に、技能的に低い生徒を中心に積極的に誉める。 声をかけ合いながら、良い雰囲気で行わせる。</p>	<p>レシーブ・トス・パスとつないで、相手コートへ返球できる。</p>	<p>ウ</p>
<p>終 末 5分</p>	<p>8. 授業の反省 9. 整列・挨拶</p>	<p>本時の課題をもとに、学んだこと、心に残ったことや感動したこと等を書かせる。 大きな声で元気よく行わせる</p>		<p>イ</p>